

ぶどうの未来をみんなで守ろう

神奈川県平塚市立勝原小学校 六年 初見 芽依

私は遠くはなれた祖父母の家に行くと、おばあちゃんがデラウエアというぶどうをだしてくれます。そのぶどうはとても甘く、最っ高に美味しいです。私の家でデラウエアがでるとなんだか祖父母に会えた気分でもうれしくなります。でも最近はスーパーに行ってもあまりデラウエアが売っていなくてあの楽しみもくれるデラウエアがなくなるのかと思うと、とても悲しくなります。

ぶどうの中でもデラウエアという品種は、明治5年頃から日本に伝わってきており、昔は小姫と呼ばれていました。デラウエアは小粒でありながら甘さが強く、適度な酸味があり、香りも良いため古くから親しまれています。巨峰などの高級なぶどうと比べ、手頃な価格で購入できることから庶民に親しまれてきた品種ですが、現在はさまざまな種類の大粒種が出回るようになり生産量が減少してきてしまっています。

デラウエアはよく日が当たる風通しの良い戸外で管理しないと、甘さが強く適度な酸味がある美味しいデラウエアに育ちません。実がなるまでには二から三年もかかるそうです。千九百八十年では約十二万トンも収穫できていましたが、近年では約四万トンしか収穫できていないことがわかっています。つまり、三分の一にまで減少してしまっています。なぜなら、デラウエアの生産者が減少してしまっているからです。この先このまま生産者が減ってしまうと、いずれデラウエアが無くなってしまう食べられなくなってしまうかもしれません。

古くから親しまれてきたデラウエアを未来に受けつぐためには、私たちがデラウエアの現状を変えていく必要があります。なので私はたくさんの人にこういった作文を通して、果物の現状を知ってもらいみんな協力しながら、果物の未来を守っていきたいです。